

C-8 衣料用人工皮革の縫製条件設定のための基礎的研究 (第1報)

— 衣料用人工皮革の特性について —

東京学芸大 石毛フミ子 鳴海多恵子 辻栄子 大角江里子  
文芸大 教育 松田歌子 大妻女短大 家政 山下 美子

目的 近年 スエードタイプの人工皮革が開発され、紳士、婦人および子供服の衣料として販売され、衣料界に脚光を浴びてきた。今回 東レ クラレ 鐘紡の3社から6種の衣料用人工皮革の提供を得ることができたので、それらを実験材料として衣料用人工皮革の縫製条件設定のための基礎的研究として今年度は以下の6報を討出し、実験を進めてきた。あくまで家庭縫製という立場から検討をおこなった。オノ・2報は人工皮革の特性についてノ3項目を測定したがオノ報ではそのうちの3項目を述べる。

方法 実験材料：人工皮革6種および比較のためにフラノを加え合計7種類

測定項目：(1) 厚さ (2) 平面重 (3) 剛軟度 (4) 防皺度 (5) ドレープ性 (6) 伸長率 (7) 伸長弾性回復率

測定方法：織布のJISに準じて測定し、測定回数5回の平均値を求めた。

結果 (1) 厚さ (2) 平面重ともに起毛編布 織布を基材とする組織のものほフラノよりも小であり、その他の人工皮革はフラノとほぼ同程度 (3) 剛軟度 織布と基材とする組織のものほフラノと同程度、その他の人工皮革はやい。 (4) 防皺度 1種ののみほその他のほフラノとほぼ同程度。 (5) ドレープ係数 人工皮革6種ともフラノよりも大。

(6) 伸長率 フラノはバイヤス方向より直方向の順であるが、人工皮革は直方向よりバイヤス方向の順。 (7) 伸長弾性回復率 フラノは直方向より直方向の順。バイヤス方向であるが人工皮革は方向面による差異は認められなかった。人工皮革は基材により伸長弾性回復率は異なる。